

## 第26回 日本乳癌学会学術総会 モーニングセミナー2



2018年4月の診療報酬改定により、乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 MRI によるものも適用となりました。これを受け、座長に聖マリアンナ医科大学 名誉教授の中島康雄先生をお迎えし、相良病院附属ブレストセンター 放射線科部長戸崎光宏医師が「MRI ガイド下乳腺生検」について講演いたしました。朝一番のセッションにもかかわらず 230 席の会場は満席立見となりこのテーマに対する関心の高さをあらわしていました。

- ① **現状**：保険適用となる施設基準や点数、適応症例が MRI でのみ検出できたものが対象であること、施設基準では日本乳癌学会に認定された施設であることなど実施にあたっての留意点も詳しく説明。これまでの戸崎医師の経験から、MRI ガイド下乳腺生検適用となった患者のうち約 38%が悪性であり、そのうち約 80%が非浸潤性乳管癌、約 20%が浸潤癌であったことを紹介しました。
- ② **読影方法および適応例**：MRI でしか検出できなかった非浸潤癌と浸潤癌の画像例を紹介されました。また過去10年間でMRI ガイド下乳腺生検の相談をうけた38例のうち、実際にMRI ガイド下で生検となったのは18例であったこと。MRI を診ることで生検不要、または超音波やマンモグラフィでの生検が可能と判断されることが少なくなかったと述べました。
- ③ **必要なデバイス**：乳腺生検対応 MRI コイルの種類や特徴、グリッド法とポスト&ピラー法で使われる固定プレート、吸引のための器具について紹介。その中 Siemens Healthineers の4ch BI Breast coil は生検手技がしやすいと感想を述べました。
- ④ **実際の手技**：生検をしている場面の写真や、syngo.via のBreVis Biopsy による穿刺位置と深さをガイドする画面などを表示しながら実際の手順を解説しました。